

『化学療法誘発性末梢神経障害に対する八味丸の痺れに対する 効用・効果に関する研究』 に関するご協力をお願い

研究の目的と意義	化学療法誘発性末梢神経障害 (CIPN) は白金製剤やタキサン系製剤を頻用する婦人科の化学療法では代表的な有害事象となっています。 一度発症すると難治性のため患者さんの生活の質 (QOL: Quality of Life) に大きな影響をもたらします。CIPNに対しては従来から様々なお薬が使用されてきています。漢方もその一つでしたが、近年「八味丸」が痺れに対する効能・効果を持つことからCIPNに対する症状改善を期待できる漢方として注目され始めています。 そのため当院の婦人科化学療法症例のCIPNに対する八味丸の痺れに対する効用・効果を検討しています。
研究の方法	西暦2025年7月1日から2026年7月1日の間に婦人科癌で化学療法を受けていて、化学療法誘発性末梢神経障害 (CIPN) の症状で八味丸 (ウチダの八味丸 M) を1回2g 1日3回で処方された患者さんの末梢神経障害の改善の程度を診療録から収集して解析をします。
対象者	西暦2025年7月1日から2026年7月1日の間に、婦人科癌で化学療法を受けていて、化学療法誘発性末梢神経障害 (CIPN) で当院に通院や入院をされていて八味丸を処方されている患者さん。
利用する試料/情報	情報等 年齢、疾患、進行期、初発もしくは再発、レジメン、化学療法開始日、CIPN発症日、CIPN発症時点でのサイクル数、CIPN時の初期対応、八味丸処方開始日とその時点でのサイクル数、併用薬、化学療法の減量の有無と理由、効果判定・八味丸の副作用・最終処方日・継続もしくは中止・中止理由
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録から取得します。
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会等の学術集会および学術誌にて発表予定です。
試料・情報の利用又は提供開始日	院長による研究実施許可日とします。
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2027年06月01日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 産婦人科 / 医長 / 平野 卓朗
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000 (代表) 済生会横浜市東部病院 産婦人科 / 平野 卓朗